
◆◆◆ 編 集 後 記 ◆◆◆

平成9年に臨床教育実践研究センターが発足して以来、今年度で23年目となりました。平素よりご指導、ご支援をいただいております皆様方のお力添えに、深く感謝申し上げます。

今号では、平成30年度に開催いたしました、当センター主催の第22回リカレント教育講座のシンポジウム抄録を特集として掲載しております。第22回のテーマは『心の教育』を考える—教師のメンタルヘルス—であり、多くの方が参加されました。シンポジウムでは、学校現場での臨床活動に造詣の深い2名の先生方をシンポジストに迎え、多角的な視点からお話いただきました。

さらに、当センターの活動報告として、公開講座抄録「不可知なもの—ことばによる思考を超える心の機能と心の変化—」を掲載しております。こちらは、平成30年9月～11月に当センター外国人客員教授としてご指導いただいたルーベン大学のRudi Vermote先生を講師として行われた公開講座の講演内容となります。精神分析のなかでもBionの論じた“不可知なる領域”について、京都学派の哲学や禅思想、脳科学を統合した視点から話されました。講演後の質疑応答では、非言語性や直観的な体験の心理療法場面における具体的な活用について議論がなされました。

また、今号には院生による4本の論文が掲載されています。すべて個人による論文です。いずれも関連する多くの文献を読みこんだ上での考察が述べられており、今後広く参照されることが期待されます。これらの特集や活動報告、研究論文を通して、当センターの多様な活動の一端を感じていただければ、幸甚に存じます。

当センターも設立から23年目となりますが、当初から変わらずにあるのは、心理教育相談室での活動を基礎に置き、日々の臨床実践を大切にするという姿勢であると思います。昨年は「平成」から「令和」へと大きな時代の移り変わりを経験いたしました。同じように、心理臨床を取り巻く環境も大きな変化を迎えています。そうした状況の中でも、目の前の実践を大切に、真摯に取り組んでいく姿勢を保ち続けていきたいと思っております。

皆様方には、本紀要について忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただければ幸甚に存じます。今後とも当センターにご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター編集委員会

山 崎 基 嗣